

有珠山の火山活動解説資料（平成24年11月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成20年6月9日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①～⑤、図2～5）

山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上100m以下、西山西麓火口群N-B火口の噴気は火口縁上10m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

15～22日に実施した現地調査では、N-B火口の噴気活動は引き続き低調で、温度も2009年以降低下した状態が続いています。山頂火口原I火口では長期的な熱活動の低下傾向が続いています。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑥、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は山頂火口原の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図7～10）

GPS連続観測及び繰り返し観測では、山体の収縮を示す地殻変動が続いていますが、これまでの傾向に変化はなく、火山活動の高まりを示すような地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成24年12月分）は平成25年1月10日に発表する予定です。

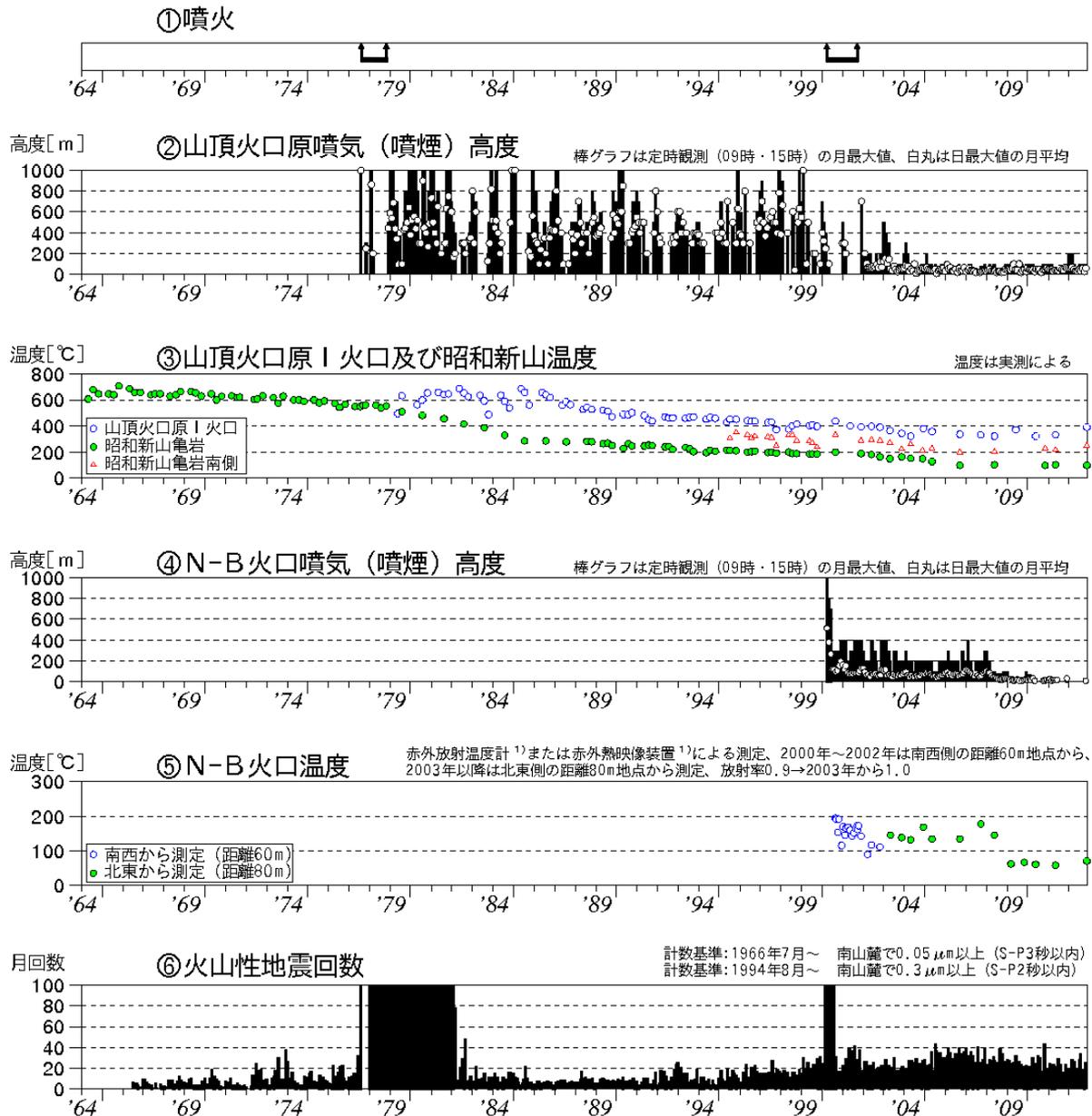


図1※ 有珠山 火山活動経過図(1964年1月～2012年11月)

↑印で挟まれた期間は噴火活動期

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

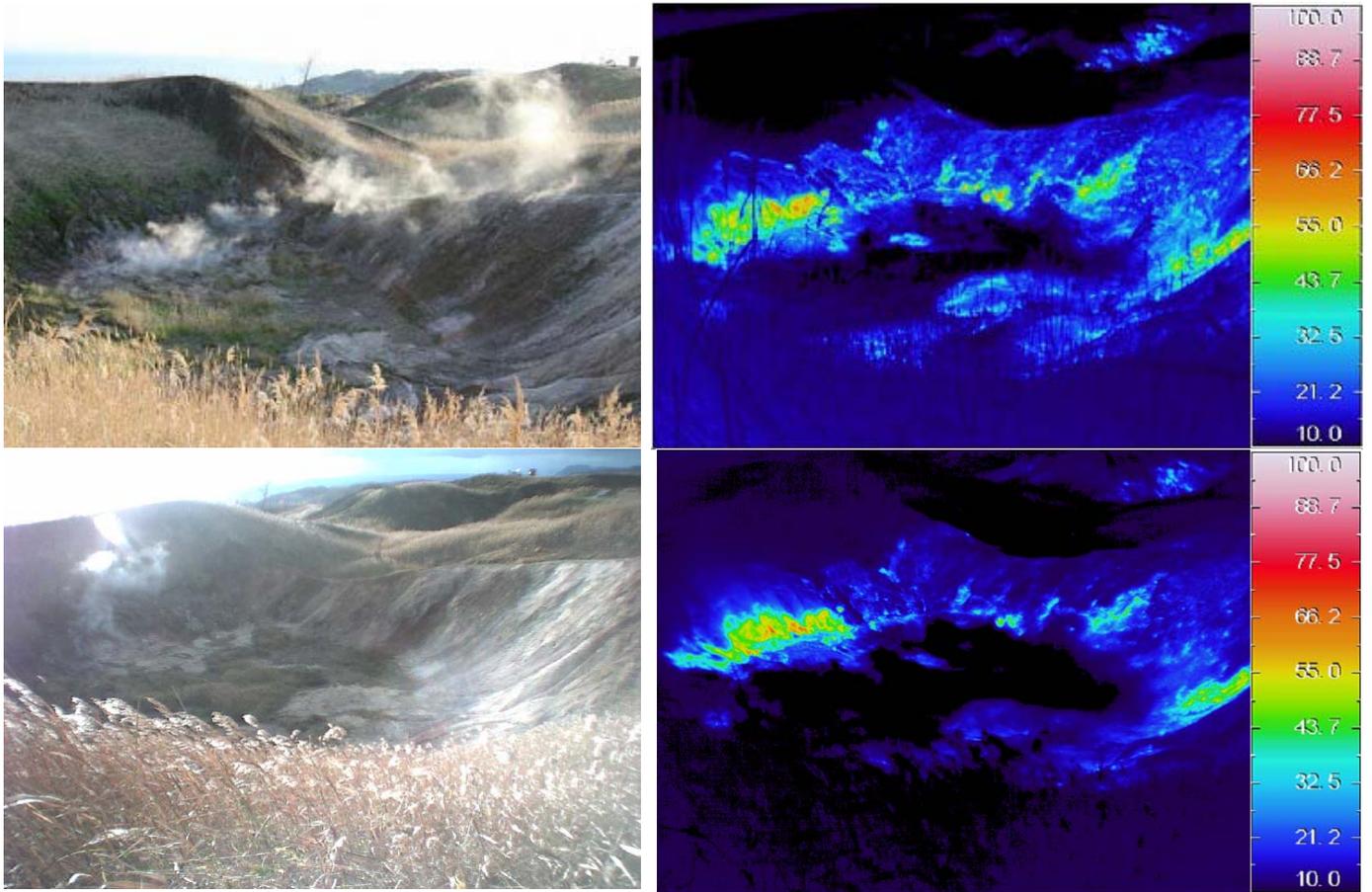


図2 有珠山 赤外熱映像装置¹⁾によるN-B火口の地表面温度分布
(上段：2011年5月12日 下段：2012年11月15日 北東側火口縁(図4の①)より撮影)

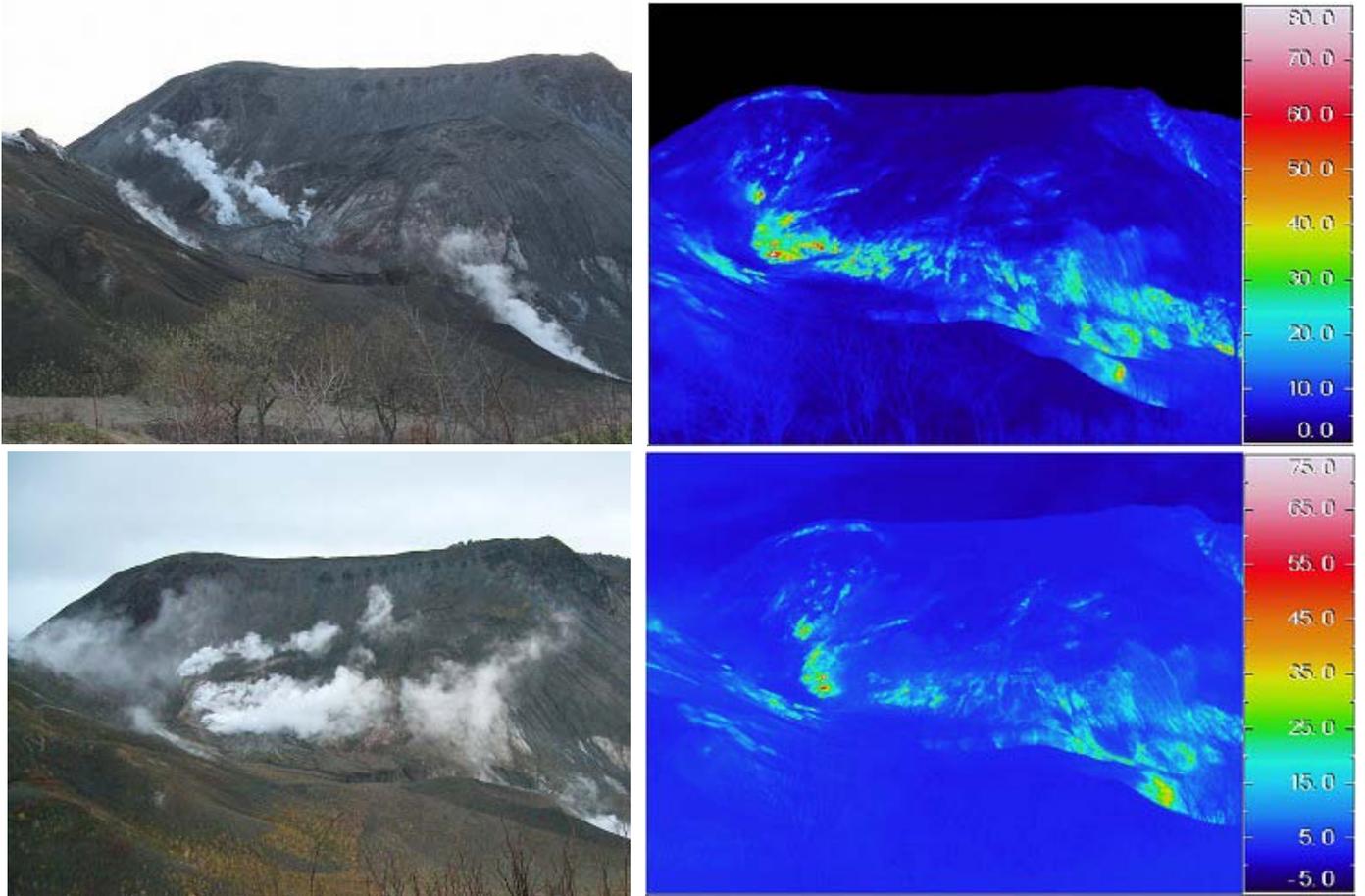


図3 有珠山 赤外熱映像装置¹⁾による山頂火口原の地表面温度分布
 (上段: 2011年5月12日 下段: 2012年11月16日 南西外輪(図4の②)より撮影)

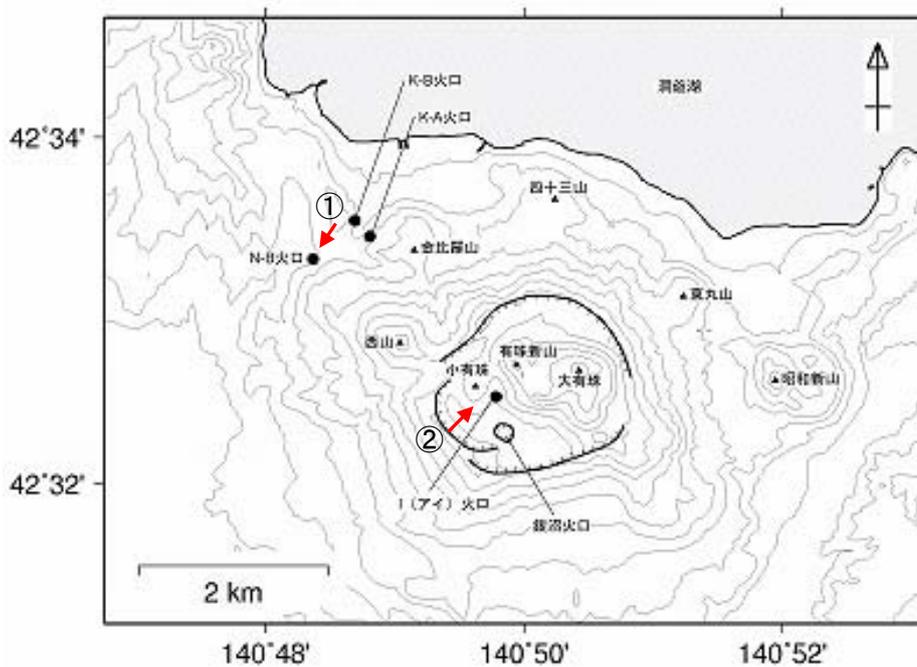


図4 有珠山 火口周辺図



図5 有珠山 山頂火口原北側の状況 (11月25日、月浦遠望カメラによる)

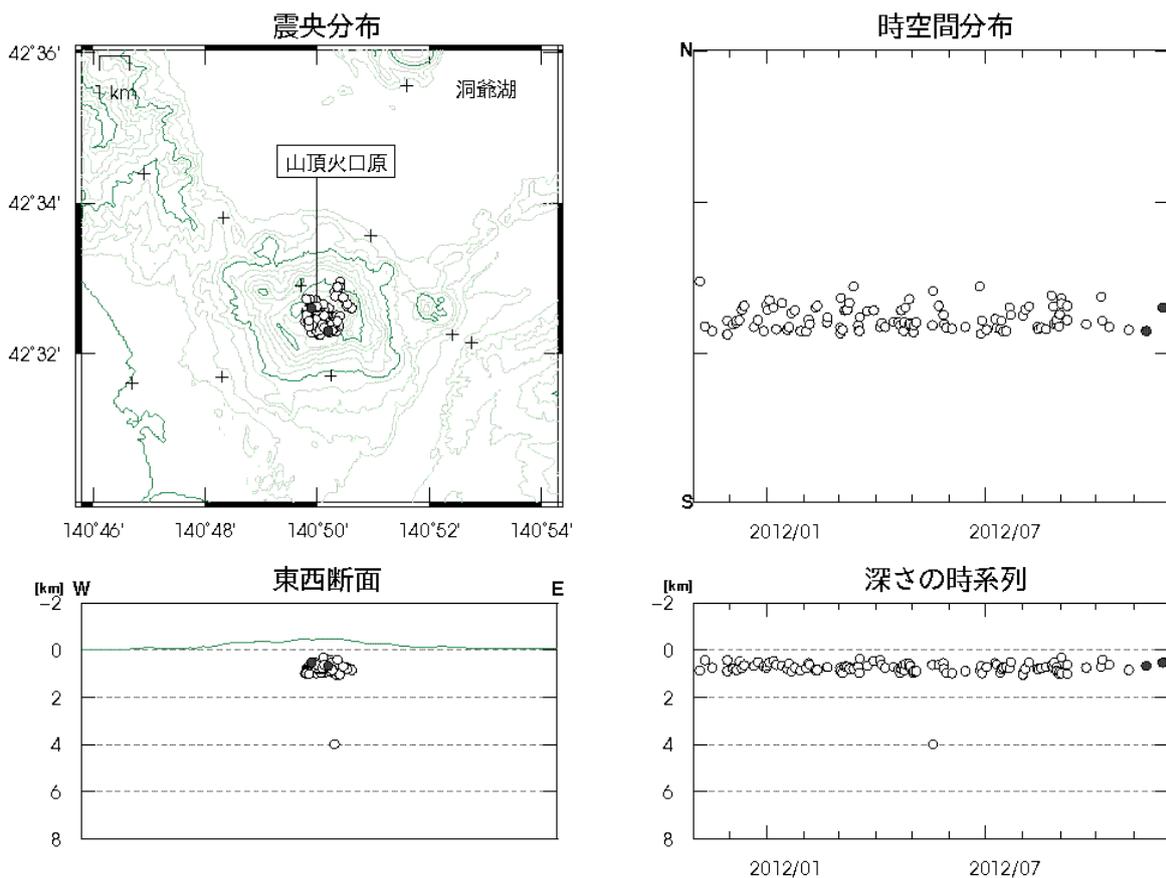


図6※ 有珠山 火山性地震の震源分布 (2011年11月～2012年11月)

○印：2011年11月～2012年10月の震源

●印：2012年11月の震源

+印：地震観測点

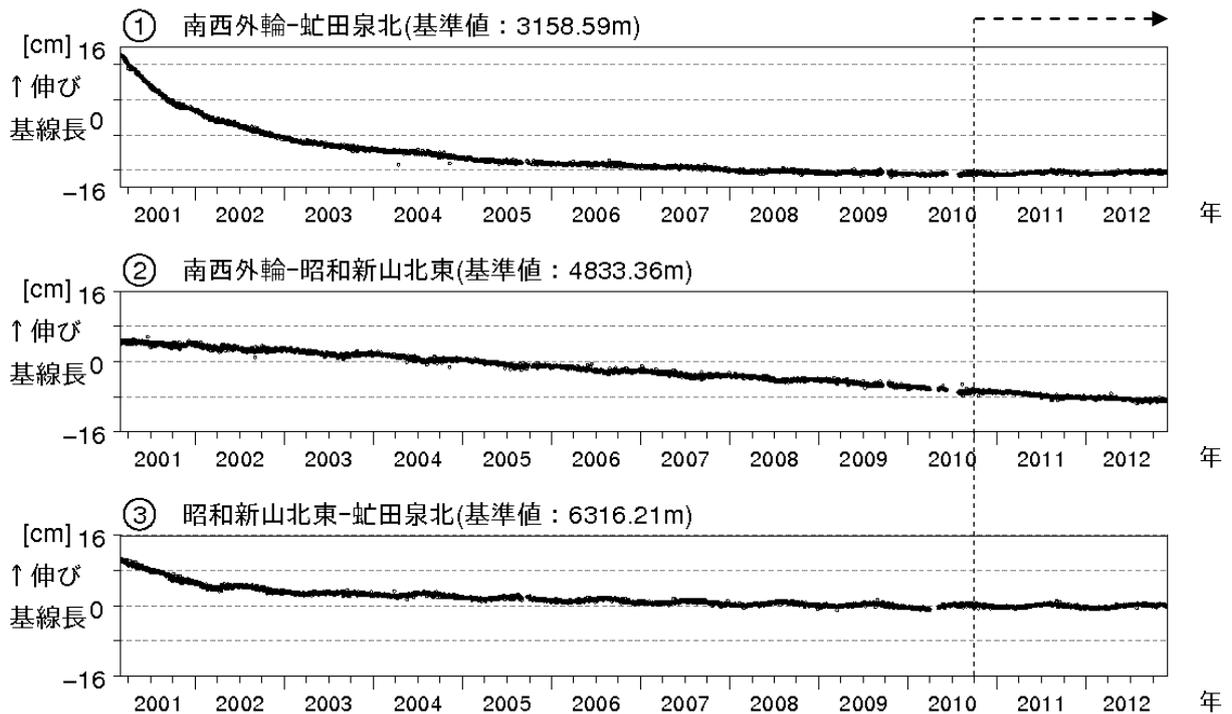


図 7 有珠山 GPS連続観測による基線長変化 (2001年3月~2012年11月)
 ・グラフの空白部分は欠測 GPS基線①~③は図8の①~③に対応
 ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています

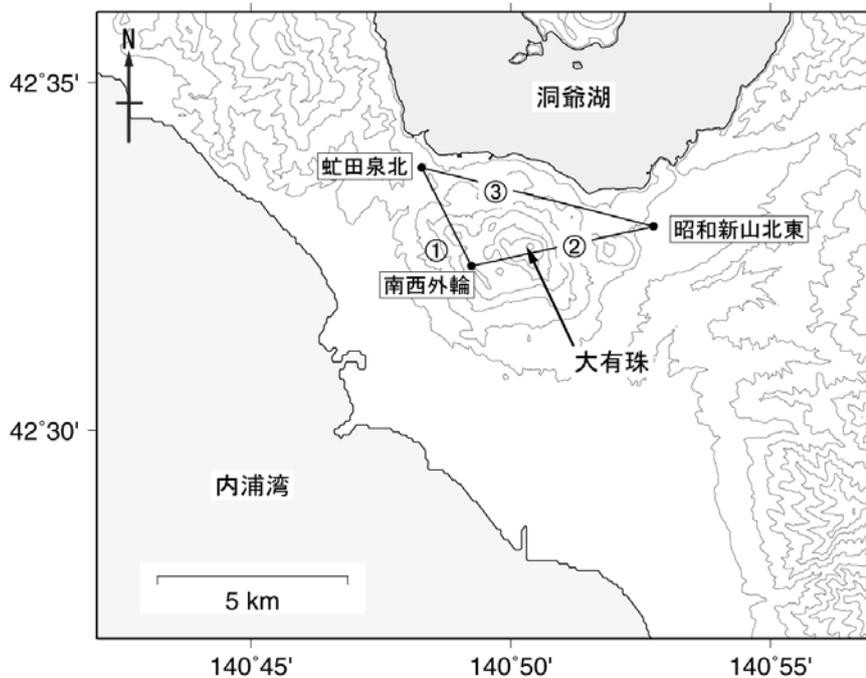


図 8 有珠山 GPS連続観測点配置図

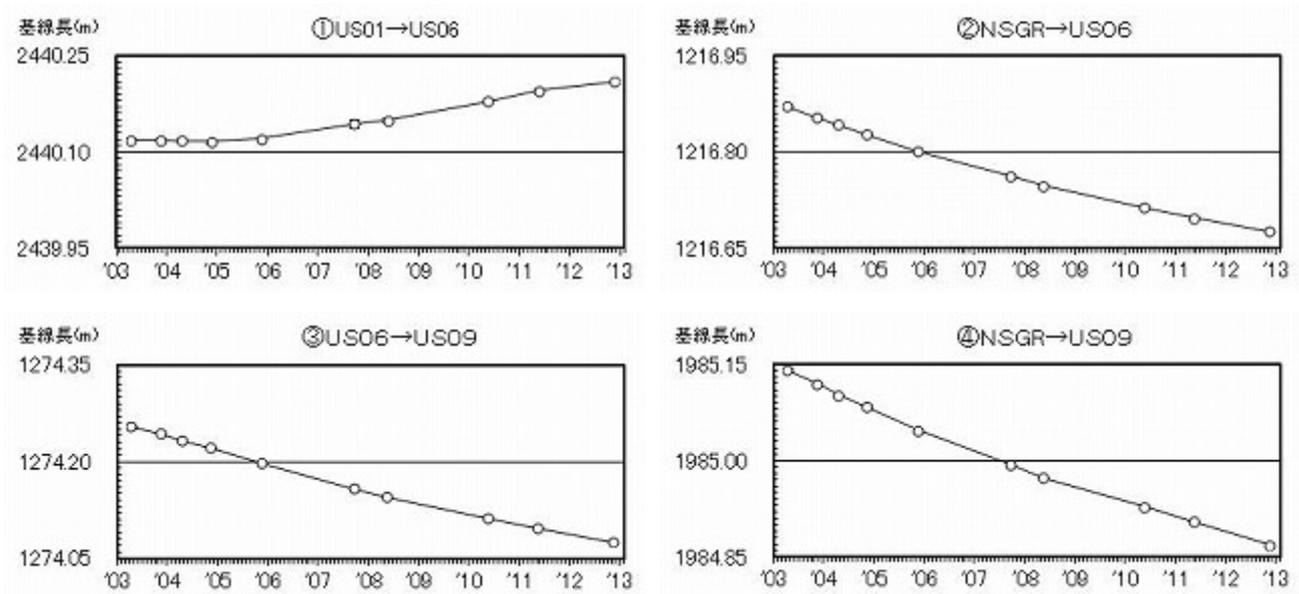


図 9 有珠山 GPS 繰り返し観測による基線長変化 (2003 年 4 月～2012 年 11 月)

GPS 基線①～④は図 10 の①～④に対応しています

2012 年 11 月 15 日から 22 日に実施した GPS 繰り返し観測では、山頂ドームを囲む基線 (図 10 の②～④) で引き続き収縮傾向が認められました

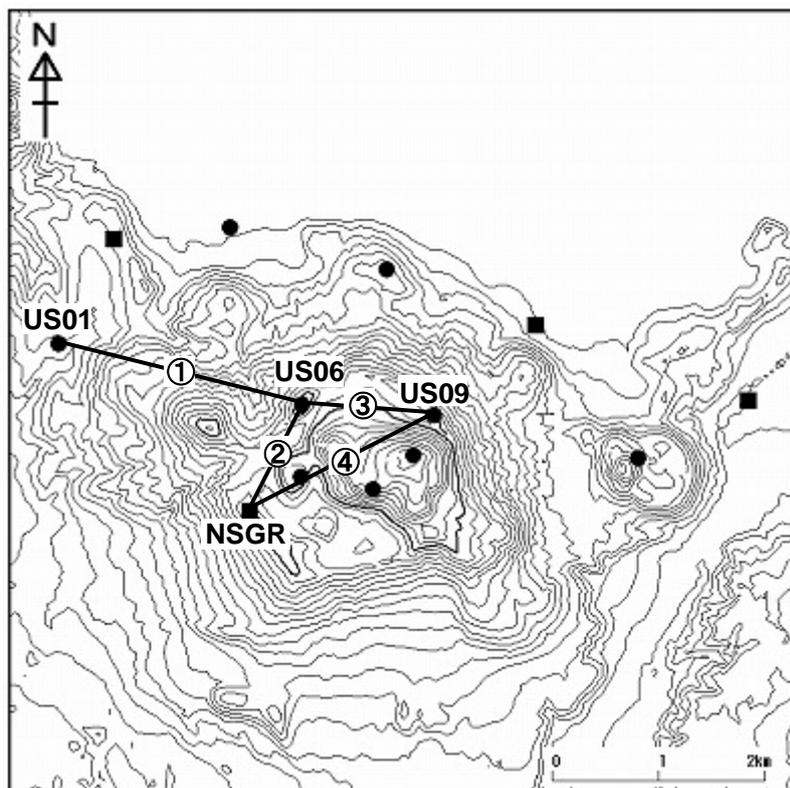


図 10 有珠山 GPS 繰り返し観測点配置図

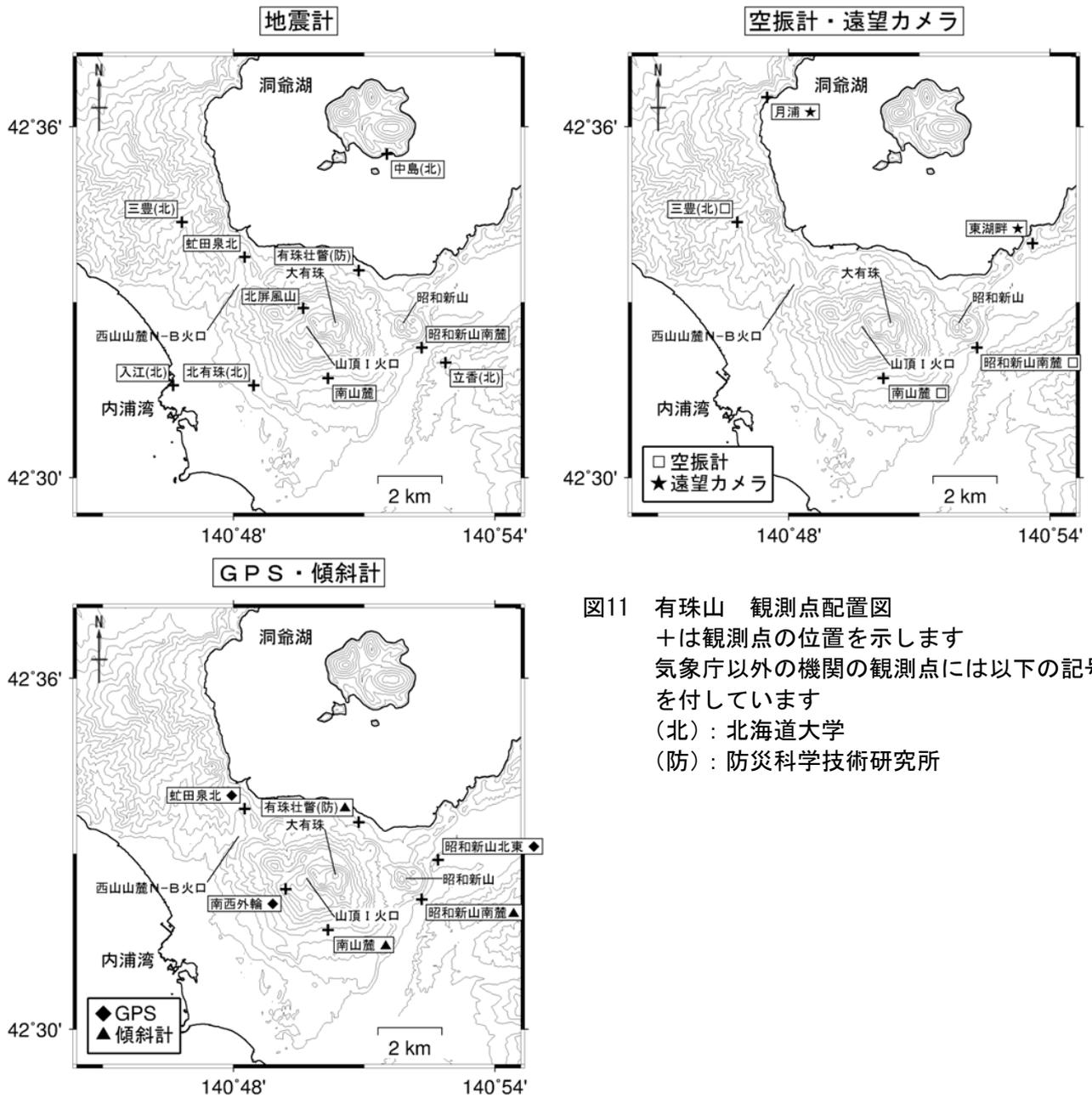


図11 有珠山 観測点配置図
 +は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (北)：北海道大学
 (防)：防災科学技術研究所